

(様式)

大阪市建設局設計・施工技術連絡会議 議事録

工 事 名	淀川左岸線（２期）トンネル整備工事－１		
会 議 名 称	大阪市建設局設計・施工技術連絡会議（第１回）		
開 催 日 時	令和２年８月６日（木） 9:30～10：50		
開 催 場 所	建設局野田工営所（淀川左岸線２期建設事務所） ３階会議室		
出 席 者	発注者	設計者	受注者
	建設局淀川左岸線２期	株式会社	鴻池・あおみ・久本特定
	建設事務所	エイト日本技術開発	建設工事共同企業体
	設計課 建設課		
議題・議事の内容			
（１） 工事概要 淀川左岸線（２期）事業は、此花区高見から北区豊崎までの自動車専用道として、淀川堤防と一体構造となるトンネル構造物を開削工法にて整備するものである。 本工事は、淀川左岸線（２期）事業のうち、福島区海老江６丁目から３丁目までの区間を対象とし、詳細設計付きの工事を行うものである。			
（２） 事案概要 本工事は、昨年度末に設計変更を実施するにあたり、「大阪市設計・施工技術連絡会議試行要領」第４条第１項の（２）及び（３）の軽微な変更該当することから設計・施工技術連絡会議を開催しなかったが、今後の工事進捗に伴い設計変更が生じた場合に対応するため、現時点において、当時の設計変更内容の対応について検証・妥当性を精査する。			
（３） 事案に対する変更内容 ① 地盤改良工について（サンドドレーン、サンドコンパクションパイル） 沿道家屋などへの振動抑制を目的とした静的締固め工法への変更 ② 構造物撤去工について（既設下水幹線撤去） 工事着手後における土質調査の結果に基づき、開削工法から置換杭工法への変更 ③ 爆弾探査工について 工事着手後における土質調査の結果に基づき、ウォータージェット併用ボーリング工法からロータリーボーリング工法への変更			

(主な意見)

- 地盤改良工の工法変更については、現場条件を勘案すると妥当な対応である。
- 土質調査結果による粘性土の鋭敏比並びに河川側の土留めが後打ち施工である状況を考慮すると、法面勾配の確保が困難であり、オープン掘削工法は難しい。また、圧密沈下に影響が生じることからサンドドレーン・サンドコンパクションパイル前には、杭を含む下水幹線を撤去しておく必要があるが、下水幹線の深度、既設杭の健全度が不確定な状況下での杭引抜きへの課題などを考慮すると鋼矢板工法では補助工法が必要であり、費用が高くなるとともに、工期の面で比較しても長くかかることから当該工区では置換杭工法が妥当な対応である。
- 軟弱土層では、一般的にロータリーボーリング工法が適合しているため、妥当な対応である。